

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：農業振興費

事業名 グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部農産園芸課ぎふ清流GAP推進係

電話番号：058-272-1111(内4114)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 6,471 千円 (前年度予算額：6,471 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	6,471	3,021	0	0	0	0	0	0	3,450
要求額	6,471	2,400	0	0	0	0	0	0	4,071
決定額	6,471	2,400	0	0	0	0	0	0	4,071

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

- ・令和2年11月に「ぎふ清流GAP評価制度」を発足し、GAPを推進している。
- ・農業者と消費者をつなぐ流通・販売業者を「ぎふ清流GAPパートナー」と位置づけ、農業者の応援体制を構築した。
- ・消費者のGAPに対する認知度はまだ低く、パートナーの活動支援により、GAP農産物への消費者理解を深化させる必要がある。
- ・一方で、GAP農産物の供給量もまだ十分ではないため、産地単位でのGAPの取組みを推進するとともに、市場や仲卸業者等へのGAPへの理解促進が必要である。

(2) 事業内容

- ①「ぎふ清流GAPパートナー」との連携による販売フェア等の取組みを強化
 - ・ステージイベント「GAPフェスティバル」の開催によるGAPの周知
 - ・販売フェア開催店舗の増加
- ②市場・仲卸等に対するGAPの理解促進及び販路拡大
 - ・市場、仲卸業者等の販売員を対象とした清流GAP出前講座及び農場視察研修会の開催
 - ・仲卸等によるマッチングの実施

(3) 県負担・補助率の考え方

国 1/2 (デジ田交付金、県：1/2)

(4) 類似事業の有無

グッドな農業を目指すGAP推進PR事業費補助金【農産園芸課】

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	32	評価会議構成員報償費
旅費	270	費用弁償、業務旅費
需用費	1,083	PR資材作成、パンフレット作成
役員費	240	通信運搬費(電話、郵便等)
委託料	4,424	販売フェア、生産者と実需者をつなぐマッチング
保険料	45	傷害保険
使用料	377	バス借上料、会議室使用料
合計	6,471	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- 「清流の国ぎふ」創生総合戦略(施策編)
 - 3 地域にあふれる魅力と活力づくり
 - (1) 地域の魅力・清流文化の創造・伝承・発信
 - ⑤「『清流の国ぎふ』ブランド」づくり
- ぎふ農業・農村基本計画
 - (2) 安心して身近な「ぎふの食」づくり
 - ②安心と信頼を届ける農畜水産物の生産展開

(2) 国・他県の状況

- ・国2030年度目標：ほぼ全ての国内産地で国際水準のGAPを実施

(3) 後年度の財政負担

- ・ぎふ農業・農村基本計画にGAP位置づけがある令和7年度までは継続が必要。

(4) 事業主体及びその妥当性

- ・県内農業の持続性を高め、安全・安心な農産物を安定的に生産・供給できるようにするGAPを推進することは、県の責務である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
消費者等へのぎふ清流GAP農産物のPR、販売促進を図り、ぎふ清流GAPの認知度を令和7年度までに25%に増加させる。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R4年度 実績	R5年度 目標	R6年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
消費者のぎふ清流GAP認知度		3.5%	15%	20%	25%	14%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流GAP評価制度の運用を開始。 評価機関として「ぎふ清流GAP推進センター」を設置。
令和3年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流GAP評価制度を運用し、35農場を認証した。 ぎふ清流GAPパートナーを幅広く募集し、58の団体・企業を登録した。 <p>指標 目標：5% 実績：3.5% 達成率：70%</p>
令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> ぎふ清流GAP評価制度を運用し、74農場を認証した。 ぎふ清流GAPパートナーを幅広く募集し、61の団体・企業を登録した。 ぎふ清流GAPパートナーと連携したメニューフェア、販売フェア等を実施した。 消費者を対象としたぎふ清流GAP産地見学バスツアーを実施した。 <p>指標 目標：10% 実績：3.5% 達成率：35%</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</p>	
(評価) 3	<p>県民の「食の安全・安心」や環境保全への関心が高まり、また持続可能な農業の実現には、農業現場におけるGAPの普及は重要であり、その取組みの消費者等へのPRは必要である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 1	<p>ぎふ清流GAPの認証者がまだ少なく農産物の供給量も少ないため、量販店等で常時販売まで至っていない、PR効果が低い。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</p>	
(評価) 2	<p>ぎふ清流GAPパートナーの企画会議を開催し、流通業者や認証者等の意見を事業に反映させることで、効果的なPRが可能となり、効率性が高い。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 ぎふ清流GAPの認証者がまだ少なく農産物の供給量も少ないため、産地単位での取組み推進、消費者へのPR及び流通業者等に対する制度の理解促進が課題。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 他事業で行う農業者へのGAPの取組みの推進と、当事業で行う消費者、流通業者等への認知度を高め、GAP農産物の需要を増やす取組みを両輪で行うことで相乗効果を図る。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	<p>グッドな農業を目指すGAP推進事業費補助金 【農産園芸課】</p>
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	<p>認証ロゴマークの利用を促進する補助事業と組み合わせて実施することで、効果的なPRが可能となる。</p>